

令和2年8月12日

所 属 情報指令課

所属長 前田 高広

電 話 06-6481-3968

令和2年上半期火災・救急・救助概要について

1 趣旨

市内において、火災予防や救急車の適正利用を促すため、令和2年上半期中に発生した火災、救急、救助に関する概要を広く周知しています。

2 対象期間

令和2年1月1日（水）～令和2年6月30日（火）

3 各概要における項目

(1) 火災概要

火災の発生状況、出火件数、焼損床面積及び損害額、火災件数の推移、出火原因、住宅火災の出火原因

(2) 救急概要

過去10年間の救急出動件数の推移、程度別、年齢区分別、事故種別

(3) 救助概要

救助隊配置体制、救助工作車配置体制、出動件数、室内閉じ込め救助件数

4 その他

令和2年上半期火災・救急・救助概要の詳細については別添のとおり。

以 上

令和2年上半期火災概要

火災の発生状況

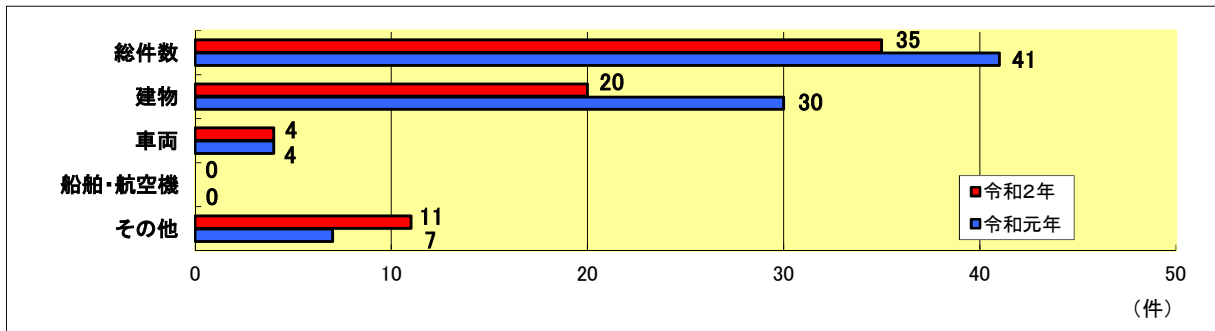
- 令和2年上半期の火災件数は35件で、焼損床面積は147㎡、損害額は1,139万2千円、死者0名、負傷者10名となりました。

令和2年	
件数	35件
焼損床面積	147㎡
損害額	1,139万2千円
死者	0名
負傷者	10名

令和元年	
件数	41件
焼損床面積	945㎡
損害額	3,664万9千円
死者	2名
負傷者	8名

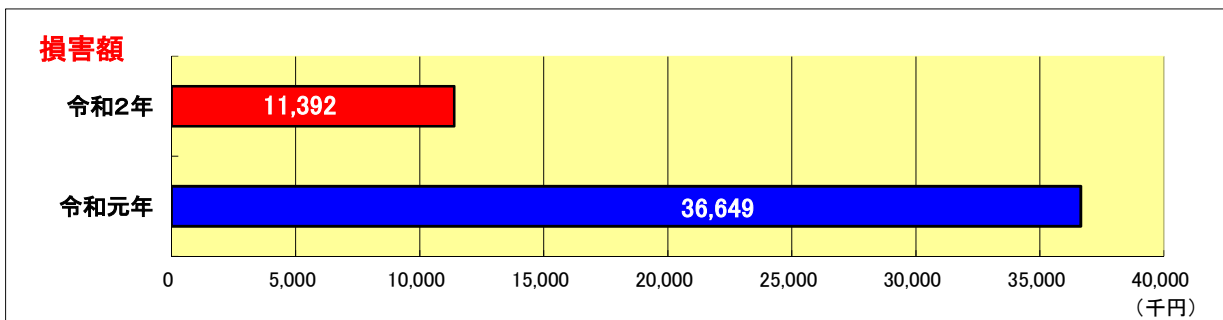
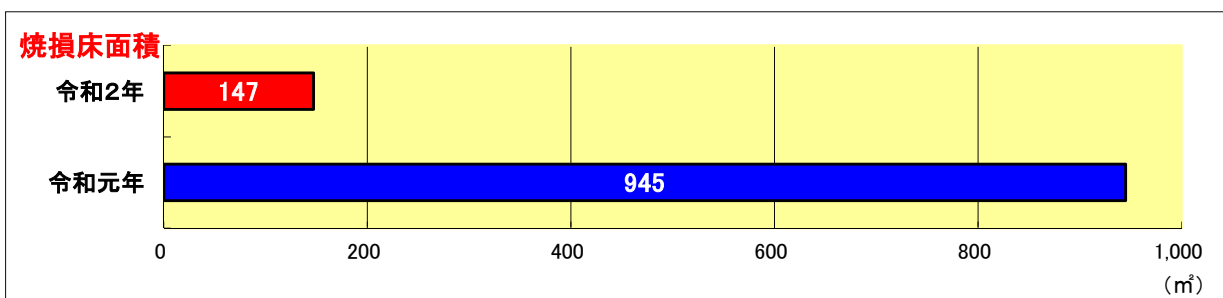
出火件数

- 出火件数は、前年の41件から6件減少し、35件となりました。
- 火災種別ごとでは「建物火災」が20件で10件減少、「車両火災」が4件で前年と同数、「船舶火災」、「航空機火災」は共に0件で、「その他火災」が11件で4件増加しました。



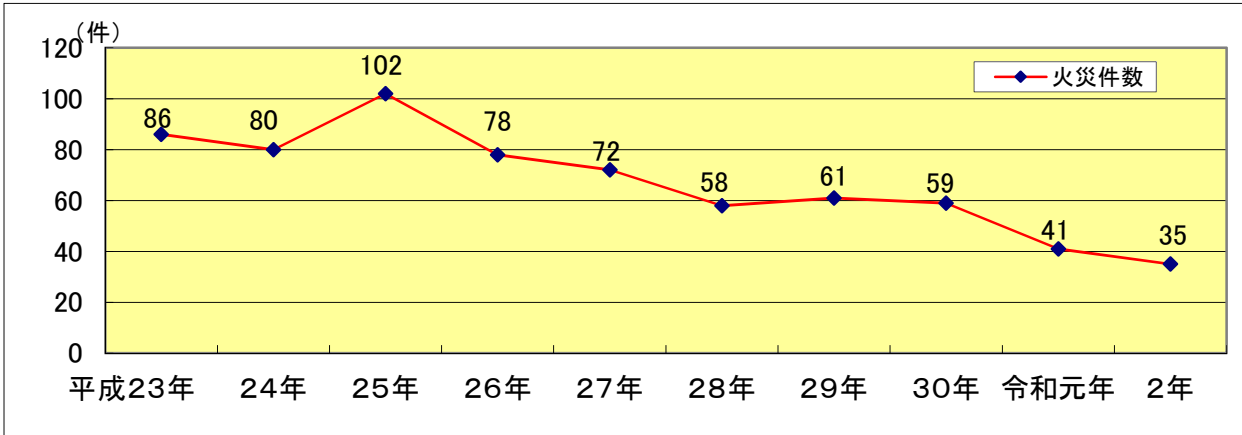
焼損床面積及び損害額

- 焼損床面積は、前年の945㎡から798㎡減少の147㎡、損害額は前年の3,664万9千円から2,525万7千円減少の1,139万2千円となりました。



火災件数の推移

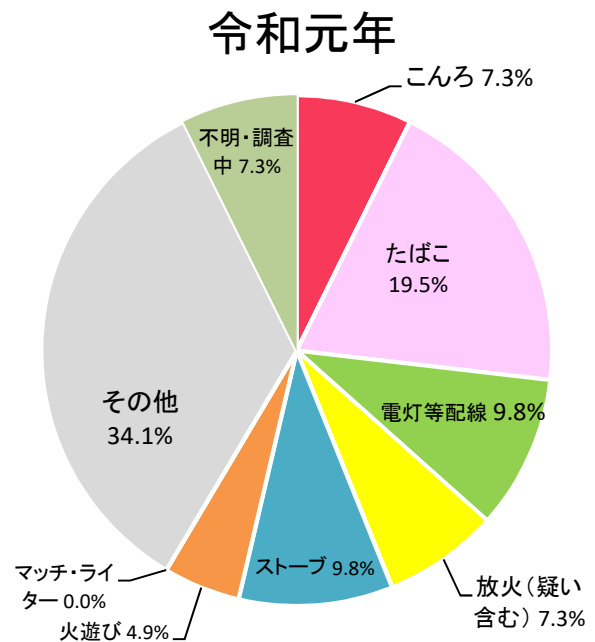
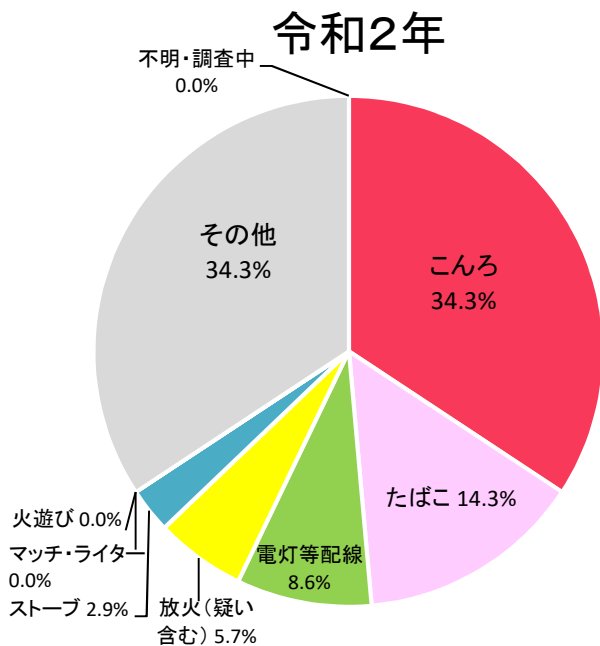
- 令和2年は35件で、前年より6件の減少となりました。
- 平成23年からの過去10年間の平均は67.2件です。



出火原因

- 主な出火原因をみると、1位は「こんろ」で12件となり9件の増加となっています。2位は「たばこ」で5件となり3件の減少、となっています。3位は「電灯等配線」で3件となり1件の減少となっています。
- 各出火原因の全体に占める割合は、上位から「こんろ」、「たばこ」、「電灯等配線」となり、件数は20件で割合は、57.1%となっています。

区分	令和2年	令和元年
こんろ	12件	3件
たばこ	5件	8件
電灯等配線	3件	4件
放火(疑い含む)	2件	3件
ストーブ	1件	4件
火遊び	0件	2件
マッチ・ライター	0件	0件
その他	12件	14件
不明・調査中	0件	3件
合計	35件	41件



※四捨五入しており、100%にならない場合があります。

住宅火災の出火原因

- 住宅やアパート・マンションなど住宅火災全体の件数は14件で、前年の14件と同数となっています。
- 令和2年の総火災件数35件に占める住宅火災の割合は、40.0%となっています。
- 住宅火災における出火原因の主なものとして、「こんろ」、「その他」、「火遊び」となり、その原因の住宅火災全体を占める割合は92.8%となっています。

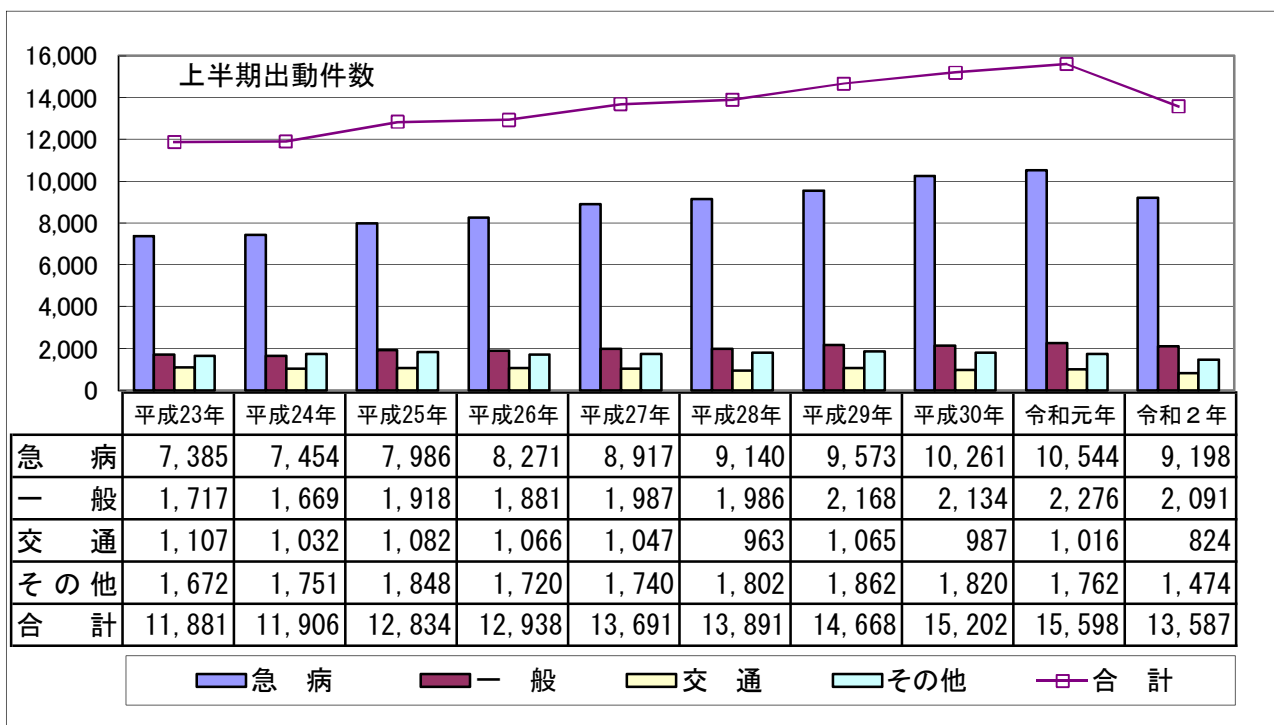
建物別	年別	計	放火(疑い含む)	たばこ	こんろ	火遊び	マッチ・ライター	ストーブ	電灯等配線	その他	不明・調査中
一般住宅	令和2年	3						1		2	
	令和元年	7		3	1			1	1	1	
併用住宅	令和2年										
	令和元年										
共同住宅	令和2年	11		1	8				1	1	
	令和元年	7		1				3	1	1	1
合計	令和2年	14		1	8			1	1	3	
	令和元年	14		4	1			4	2	2	1

令和2年上半期救急概要

- 令和2年上半期（1月～6月）における救急出動件数は、13,587件（前年15,598件）で2,011件（12.9%）の減少となり、搬送人員は、11,657人（前年13,504人）で1,847人（13.7%）の減少となっています。1日平均は74.7件（前年86.2件）であり約19分に1件の割合で救急隊が出動したことになります。

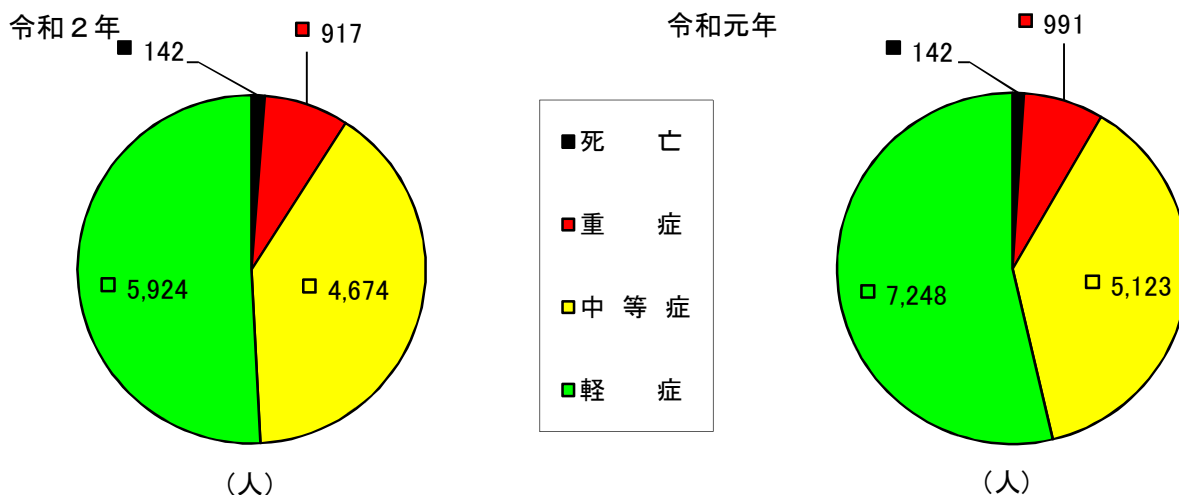
過去10年間の上半期救急出動件数の推移

- 過去10年間の上半期救急出動件数をみると、令和元年まで9年連続で増加していたが、令和2年は減少に転じ、過去最多となった昨年より2,011件の減少となります。



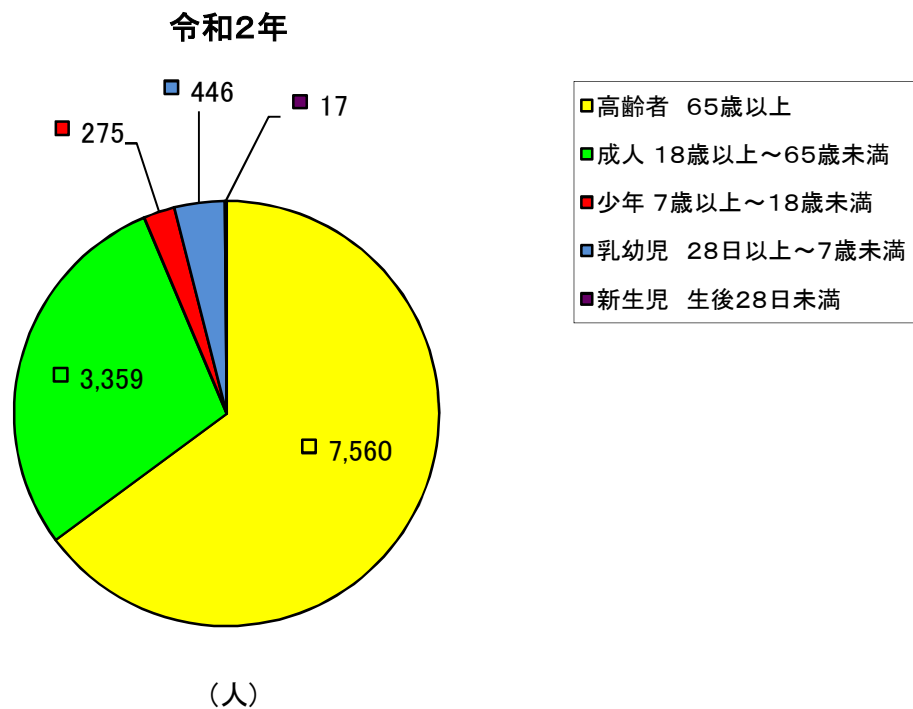
程度別

- 程度別をみると、軽症5,924人（前年7,248人）で1,324人（18.3%）の減少、中等症4,674人（前年5,123人）で449人（8.8%）の減少、重症917人（前年991人）で74人（7.5%）の減少、死亡142人（前年142人）で増減なしとなっています。



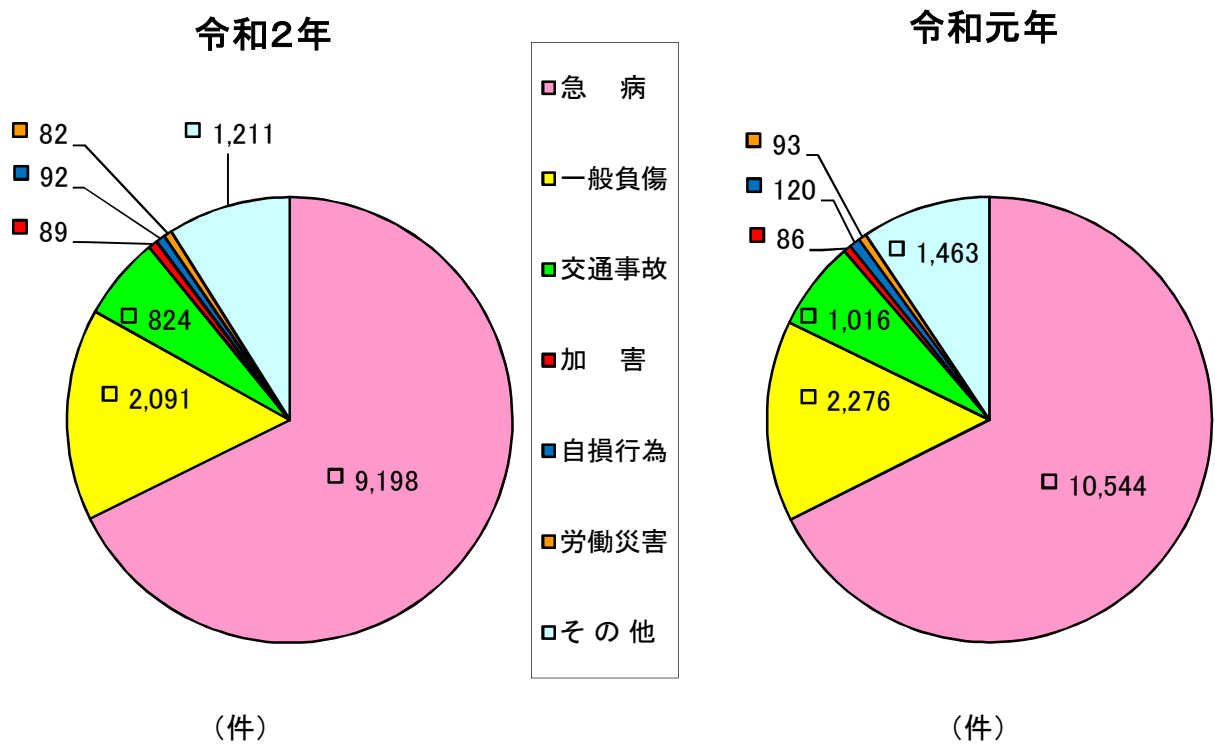
年齢区分別

- 年齢区分別をみると、高齢者が7,560人で最も多く、全体の64.9%を占め、以下、成人、乳幼児、少年、新生児の順となっています。



事故種別

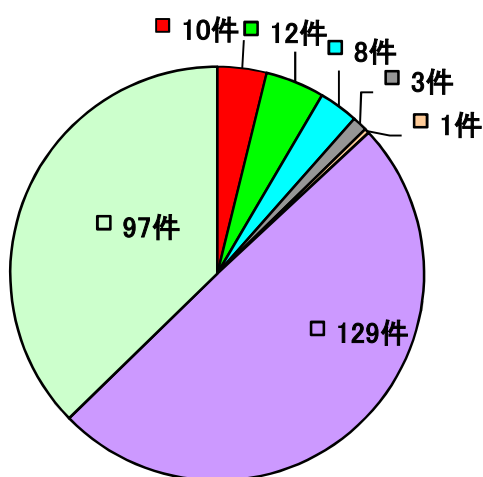
- 事故種別をみると、急病が最も多く全体の67.7%を占め、以下、一般負傷、交通事故の順となっています。



令和2年上半期救助概要

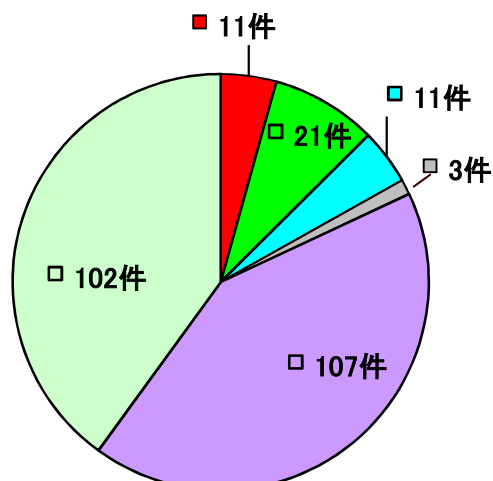
- 本市の救助体制は、高度救助隊1隊、特別救助隊1隊、署救助隊2隊、水難救助隊1隊で計5隊の救助隊を配置しています。
- 救助工作車は2台を有し、市域の南部に1台、北部に1台を配置し、あらゆる災害における救助体制の拡充、強化を図っています。
- 令和2年上半期の出動件数は260件（前年255件）で、出動隊数は415隊（前年421隊）となっており、種別ではその他の事故を除き、建物等による事故が最も多くなっています。
- 近年では、室内閉じ込め救助が増加しています。この室内閉じ込め救助とは、何らかの理由により、自力でドアを開けて外に出られなくなった又は室内に人がいると思われるが、安否の確認が出来ない状態のことであり、救助出動件数260件のうち181件（69.6%）がこの室内閉じ込め救助出動となっています。

令和2年救助出動件数



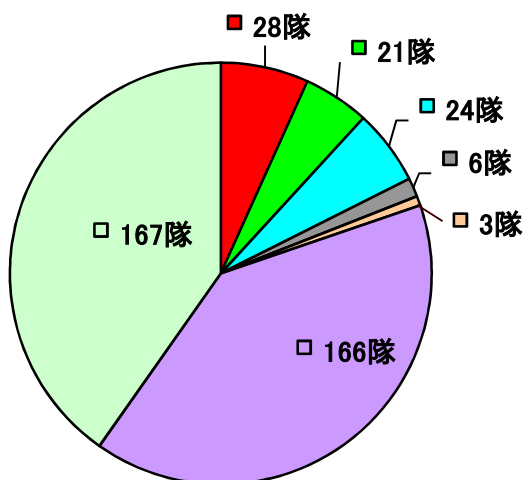
260件

令和元年救助出動件数



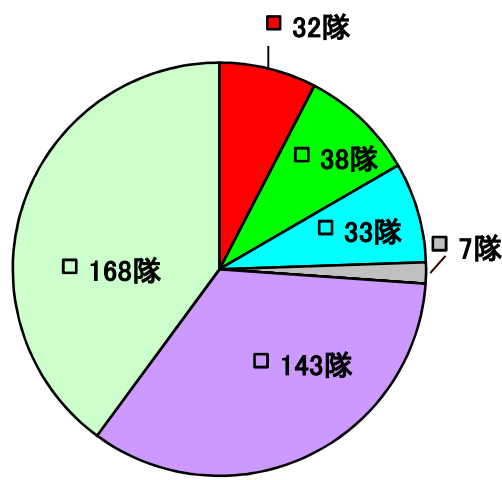
255件

令和2年救助出動隊数



415隊

令和元年救助出動隊数



421隊